

659 昭和9年10月18日 在汕頭原田領事より
広田外務大臣宛(電報)

船長宛税関長警告書簡承認により第一陸海丸
积放について

汕頭 10月18日後発
本省 10月18日後着
往電第四七號ニ關シ
船長ハ十六日船主ヨリ同意ノ旨返電ニ接シタル由ニテ十七
日稅關長代理ノ十三日附(脫?)ヲ「アクノレツジ」シタル處何
時出港スルモ自由ナリト申渡サレタル趣ナリ

右手續ハ陸海丸ト稅關トノ直接折衝ニ依リ之ヲ爲サシメ本
官トシテハ何等關知セサル建前ト成リ居レリ
尙同船ハ香港仕向「ガソリン」空罐ヲ積載シ居ル關係上十八
日同地ニ向ケ出港セルカ途中支那沿岸航行ニハ國旗ヲ用意
シ充分ニ注意スル様申聞ケ置キタリ
臺灣總督府總務長官ヘ轉電シ冒頭往電ト共ニ北平、南京、
福州、廈門、廣東、香港ヘ轉電アリ度
冒頭往電ト共ニ臺灣總督府總務長官ヨリ馬公ヘ轉電セリ
シ

4 福建新政府をめぐる諸問題

第一部第二卷第523文書の誤りと思われる。

660 昭和9年1月2日 広田外務大臣より
在南京日高總領事宛(電報)

廈門および福州空爆に際する国民政府の各國
在留民避難勧告につき本邦人の避難は不可能
である実情を同政府に徹底方訓令

本省 1月2日後2時5分発

第一號

客年貴官發支宛電報第七四七號ニ關シ

差當リノ措置トシテ客年廈門發貴官宛電報第一號ノ趣旨ヲ
支那側ニ充分撤底シ置カレ度又福州ニ關シテモ右ト全趣旨
ヲ以テ先方ノ注意ヲ喚起シ置カレ度(客年福州發本大臣宛
電報第四六五號ノ次第ハアルモ全地ニ於テモ萬一二モ帝國
臣民殊ニ其ノ財產ニ對シ被害發生スルナキヲ保セザレバナ
リ)

支、北平、福州、廈門へ轉電セリ

編注 第七四七号は第七四六号(『日本外交文書』昭和期II)

661 昭和9年1月4日 在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

廈門および福州在留邦人が避難しないことへ
の国民政府側不満表明に対し避難不可能な実
情を説明の上慎重行動方申入れについて

南京 1月4日後発

第一號

貴電第一號ニ關シ

當館員ヲシテ徐謨ヲ往訪セシメ廈門發本官宛電報第一號ノ
趣旨及福州(脱?)ニ關シテモ支那側ノ注意ヲ喚起セシメタ
ル處徐ハ支那側トシテハ先日外交部長ヨリ各國領事宛文書
ヲ發送シ警告濟ノ積リニテ
同地方ニ在住スル日本人カ何故安全地帶ニ避難セサルカ了
解ニ苦ム旨述ヘタルニ依リ英米等ト異ナリ福州、廈門ニハ
多數ノ邦人カ住(居)シ巨額ノ財產存在シ居ル點ヲ指摘シ避
難ハ事實上不可能ナル旨ヲ繰返シ力説シ慎重ニ行動方申入

レシメタリ

支、北平、福州、廈門へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~  
在中國有吉公使より  
廣田外務大臣宛(電報)

662 昭和9年1月6日

在留邦人の避難は困難につき廈門および福州  
方面への戰禍波及を防止するよう国民政府お  
よび福建新政府双方に申入れ方請訓

別電 一月六日發在中国有吉公使より廣田外務大臣  
宛第八号

国民政府への申入れ案

上 海 1月6日後発  
本 省 1月6日後着

第七號

客年南京發本使宛電報第七四六號ニ關シ

福州、廈門地方在留邦人ヲ全部安全地帶ニ引揚ケシメ難キ  
事情ニ付襄ニ本使ヨリ汪院長ニ申入レタルカ其後モ機會ア  
ル毎ニ支那側ノ注意ヲ喚起シ居ル次第ナルカ本件公文ヲ其

(別電)

上 海 1月6日後発  
本 省 1月6日後着

第八號

外交部長公文ノ趣旨ヲ閱悉セル處我方カ福建事變ニ對シ帝

本電別電ト共ニ北平、南京、福州、廈門ニ轉電セリ

御電報ヲ請フ(當地海軍側及陸軍武官ト打合セ濟)

儘ニスルハ面白カラサルノミナラス(英米側カ本件公文ニ  
對シ口頭ニテ回答セル事ハ別ニ電報ス)最近林知淵ハ蔣介  
石ノ武力解決策進捗ニモ鑑ミ福州、廈門方面ニ戰禍ノ波及  
セン事ヲ防止スル爲福建軍陸戰隊等ヲシテ同地方ヲ無事十  
九路軍ヨリ接收セシムル様南京側及福建側トノ間ニ種々運  
動シ居リ當地ニ於テ我方海軍側ニ接近シ來リ居ル趣ナリ就  
テハ此ノ際我方ヨリ南京及福建ニ對シ福州、廈門ニ戰禍波  
及ヲ防止スル様盡力方注意ヲ與フル事適當ナリト存セラル  
ルニ付テハ冒頭電報外交部長公文ニ對シテハ別電第八號ノ  
趣旨ニテ回答シ福建側ニ對シテハ當該領事ヨリ右ノ趣旨ヲ  
口頭ニテ然ルヘク申入レシムル事ト致度キ處右差支無キヤ  
御電報ヲ請フ(當地海軍側及陸軍武官ト打合セ濟)

~~~~~  
在中國有吉公使より
廣田外務大臣宛(電報)

國ノ權益及在留邦人ノ生命財產ニ危害ヲ及ホササル限り全
然不干涉ノ立場ニ在ルコトハ我方ニ於テ再三言明セル通り
ナルカ福州廈門等ノ地方ニ在留スル邦人ハ頗ル多數ニシテ
福州ニ於テハ成ルヘク南台ニ避難セシメ居ルモ全部ノ收容
ハ困難ニシテ廈門ニ於テハ二萬ノ在留民ヲ鼓浪嶼ニ移スカ
如キコトハ實際上不可能ナル而已ナラス避難在留民ハ何レ
モ多額ノ財產ヲ遺留シタル次第ナレハ我方トシテハ國民政
府ニ於テ是等在留民ノ生命財產ニ損害ヲ及ホササル様何等
有效ナル手段ヲ執ラレンコトヲ希望スルモノニシテ本使ト
シテハ之カ爲ニハ福州廈門地方ニ戰禍ヲ波及セシメサルコ
ト頗ル望マシト思考シ居ル次第ナリ

(欄外記入)

福建省ハ日支間ニ特殊ノ關係ヲ有ツコトヲ加ヘテハ如何

~~~~~

663 昭和9年1月8日 広田外務大臣より  
在中國有吉公使宛(電報)

廈門および福州方面への戰禍波及防止に関する

る国民政府への申入れ案修正の上同政府へ申

入れ方回訓 本省 1月8日後10時0分発  
第二號(至急)

貴電第七號ニ關シ

貴電第八號冒頭「閱悉セル處」ト「我方カ福建事變ニ對シ  
トノ間ニ「福建省ニ關シ帝國ハ條約上ノ重大ナル權益ヲ有  
シ居リ又全地方ニハ多數ノ邦人居住シ居ルコト御承知ノ通  
リナルカ」トノ趣旨ヲ挿入シ又全電末段「我方トシテハ國  
民政府ニ於テ」以下ヲ「福州廈門地方ニ戰禍ノ波及スルヲ  
防止スル等在留帝國臣民ノ生命財產ニ損害ヲ及ホササル爲  
何等有效ナル手段ヲ執ラレンコトヲ求ムルモノナリ」ト修  
正ノ上外交部長へ回答アリ度福建側ニ對シテハ貴見ノ適當  
該領事ヨリ同一趣旨ヲ然ルヘク口頭申入レシムルコト致  
度

北平、南京、福州、廈門へ轉電セリ

~~~~~

664 昭和9年1月9日 在福州守屋總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

福州市内の治安狀況について

福州 1月9日後発
本省 1月9日後着

第一二號

往電第一〇號ニ關聯シ當地治安狀況御参考迄左ノ通

一、戰亂水口迄波及シ福州及其附近ニ武裝セル兵、鐵條網及

塹壕等軍事施設ヲ目擊スル市民ノ不安ハ愈深刻トナルモ

ノト認メラルニ不拘市内ノ秩序左迄混亂シ居ラサルハ

稍奇異ノ感無キヲ得ス即チ市民ハ政府建物、飛行場及往

電第一〇號ノ布告ノ指示スル地域ヨリ撤退シ多ク南台ニ

集リ右地域ハ人口過剩ノ實狀ナルモ略奪放火等ノ事故殆

ト無ク又市内目抜ノ大通ノ各種大商店ハ今尙營業ヲ續ケ

居レリ(政府力軍票ヲ以テ物品ヲ買上ケントスルノ謠言

ニ怯工閉店シタルモノモ政府カ最近二萬五千俵ノ米ヲ市

内ヨリ買入レ現金ヲ支拂ヒタルヲ見安堵シ居ル模様)又

事アル毎ニ戒嚴令敷カレ特ニ夜間ノ通行等ヲ禁シタルモ

革命政府ハ十一月二十日前後ニ短期間實施シタルノミニ

テ爾來同様ノ事無キ爲市民ハ安堵シ居ル様見受ケラル

三、飛行機爆撃ニ際シ一時南台及臺灣公會ニ引揚ケタル籍民

ハ依然其儘トシアリ(夜分青年男子ハ皆城内ノ自宅ニ歸

め国民政府に改めて邦人保護を申入れ方訓令

本省 1月10日後8時15分発

第二號

中央軍ハ次第二福州方面ニ進出シ居ル模様ナル一方廈門地

方ニ於テモ反十九路軍勢力ノ策動等アル模様ニテ成行如何

ニ依リテハ兩地方ノ治安亂ル虞アリ就テハ本大臣發在支

公使宛電報第二號公文ノ次第ハアルモ前記事態ニ顧ミ此ノ

際改メテ國民政府ニ對シ在留邦人ニ被害ノ及ハサル様萬善ノ

策ヲ構シ以テ事件ノ發生ヲ避ケル様措置セラレ度旨嚴重申

入レラレ度

支、北平、廈門、福州ニ轉電セリ

第五號

666 昭和9年1月10日 広田外務大臣より
在福州守屋總領事(在廈門塚本領事)宛(電報)

福建新政府側へ邦人保護を申入れ方訓令

本省 1月10日後8時35分発

本大臣發南京宛電報第二號ニ關シ

888

889

ルコト從前通)將來福州附近ニテ戰爭アル場合ハ公會内ニ在ル者全部ヲ南台ノ日本人小學校ニ移轉セシム可ク既ニ準備整ヒ居レリ今ノ處籍民ハ勿論居留民全部本官ノ措置ニ信賴シ何等ノ苦情無シ(十三日ニハ馬公ヨリ巡洋艦球磨來港驅逐艦羽風ト交代ノ筈ナレハ居留民ハ一層安心スルコトト存ス)

三、英米佛領事ハ城内及危險地帶居住ノ自國民ニ一時南台引揚ヲ勸告セルモ自己ノ危險ニ於テ引續キ城内ニ止ル者モ

二、三アル趣ナリ尙外國領事ハ福州附近ニテ戰爭ハ避ケ得ルトスルモ革命軍敗退ノ際南台ヲ通過シ略奪ヲ行フ惧

アリトシ萬一ノ場合ニハ各國軍艦ヨリ兵員ヲ上陸セシメ南台ノ治安維持ニ協力スルコトヲモ考慮セン意向アル様察セラル爲念

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、廈門ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ漢口ヨリ九江ヘ轉報アリタシ

665 昭和9年1月10日 広田外務大臣より
在南京日高總領事宛(電報)

福州および廈門方面的治安惡化が懸念されるた

人民政府側(廈門ニ於テハ必要ニ依リ反十九路軍勢力等ニモ)ニ對シ右南京宛往電ノ趣旨ニ依リ申入レ置カレ度

本電宛先 福州、廈門

支、南京、北平ヘ轉電セリ

667 昭和9年1月10日 在福州守屋總領事より
広田外務大臣宛(電報)

福州の事態逼迫に伴い各國領事と対策など意見交換について

福州 1月10日後発

本省 1月10日後着

第五號

往電第一二號末段ニ關シ

セリ其ノ際英國領事ハ當地ニ在ル亞細亞石油「タンク」

ニ「キヤンバス」ヲ以テ覆ヲ造ルヘキ事ヲ南京政府ヨリ

南京駐在ノ英國公使館員ニ要求有リタル趣通報有リタルヲ以テ右ノ次第當地石油會社ニ勸告セリ但シ廈門ハ近々平和的ニ中央海軍ニ引渡サルル模様ナレハ福州モ戰爭ノ

有スル唯一ノ重要事トシテ累次各方面ノ注意ヲ喚起シ來レル事ハ電報報告ノ通ナルカ御來訓ニ依リ更二十一日午後外務部徐次長ニ對シ嚴重申入ルルト同時ニ海軍側(往電第一〇號參照)及軍政部陳次長ニ對シテモ夫々注意ヲ喚起シタルニ何レモ在留邦人ニ被害ノ及ハサル様萬全ヲ盡スヘキ旨

セル由)ノ球磨艦長其ノ他ト居留民保護ノ問題ニ付十日及
十一日協議ヲ行フ要領左ノ通
一、革命軍失敗ヲ見届ケ居リテハ時期ヲ失シ南京事件ノ二ノ
舞ヲ演スル惧無キニ非サルヲ以テ十二日頃ヨリ武器ト共
ニ相當數ノ兵員ヲ上陸セシム

答へタリ
支、北平、廈門、福州へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

A vertical wavy line, likely representing a boundary or a specific feature in the image.

671
昭和9年1月11日
在福州守屋総領事より
広田外務大臣宛(電報)

福州の事態逼迫に伴い陸戦隊上陸を含め居留

民保護に關し海軍側と協議について

福州

第二九號

第一五號

水口陥落及革命政府ノ緊張振ニ徵シ事態稍逼迫セル様ニモ思ハルルニ付十日到着（十三日着ノ筈ナリシヲ繰上ケ廻航

客年貴電第四六一號、(編註)廈門來電第七號及同來信第五七一號

福建政府ノ徵稅振り稍モスレハ無統制ニ流レ易ク而モ此ノ重課稅ニシテ一旦實施ニランニシムニ、台之三ノノ後

種誤解ニシテ一旦實施セラル、ニ於テハ治安定マリタル後二於テモ其ノ撤廢方困難ナル場合ヲ生スルコト既ニ先例モ

有之此ノ際課稅ニ關シ我方ノ利益ヲ害セラル、コト無キ様充分ノ監視ヲ要スル次第ナル處本件一割附加稅ハ既ニ廈門

ニ於テ徵收ヲ開始セル趣ナルニ付其ノ撤廢方ニ關シ此ノ上共貴官ノ御盡力ヲ煩ハシ度キ外冒頭廈門來信ニ依レハ同地

ニ於ケル統稅ノ徵收ハ手續上ニ統一ナクニ重徵收ニ陥リ居
レ莫議ナレニ寸石手續ノ是正方ニ關ノテニ夏月貢事由出ノ

バ 桜 桜 バ ニ 代 在 ニ 細 ハ 是 工 方 二 關 シ ラ ト 廣 田 領 事 申 口 ハ

時節柄貴官御多用中トハ存スルモ本電冒頭記述ノ次第モア
リ機ヲ見テ適宜御措置相成ルコト、致度シ

支、北平、青島、漢口、廣東、汕頭、廈門へ轉電セ
支ヨリ上海ヘ、廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

編注『日本外交文書』昭和期II第一部第二卷第522文書。

ヘキニ付安心アリタシトノ趣旨ヲ陳述セリ之ニ對シ本官ヨリ軍艦上陸員ニ依リ居留民保護ノ必要ナル事ヲ説示シタル處納得シテ歸去セリ

冒頭往電ノ通り轉電セリ

支ヨリ上海へ漢口ヨリ九江へ轉報アリタシ

支ヨリ上海へ漢口ヨリ九江へ轉報アリタシ

三、本件ニ關聯シ馬公新山司令官十三日帆風ニテ來著ノ筈冒頭往電ノ通轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

674

昭和9年1月12日 在福州守屋總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

在留邦人保護のため陸戰隊上陸を海軍側と協

議決定について

福州 1月12日後発

本省 1月12日後着

第二五號

往電第一九號ニ關シ

一、居留民保護ノ爲軍艦乗組員ヲ上陸セシムルコトニ付革命政府側ニ異議無キコト及右異議無キ様指導シツツアルコトハ累次往電ニテ御承知ノコトト存ス外國領事側ニテモ別ニ差出カマシキ言動無シ旁本官ハ軍艦側ト相談ノ上十

二日又ハ十三日ヨリ兵員ヲ上陸セシムルコトトセリ

第三〇號(海軍省經由)
往電第二五號ニ關シ

一、十九路軍敗走ノ場合ノ福州治安維持ニ關聯シ酒井大佐ニ於テ十九路軍ト中國海軍陸戰隊トノ間ニ陸戰隊ニ於テ和平裡ニ接收方幹旋中ナリシ處十九路軍側ニ於テハ十一日左ノ條項ヲ提出シ右條件ニシテ容レラルニ於テハ十九(路)軍ハ福州ニ入ラスニ退却スルコトヲ明ニセリ
(一)海軍側ニテ 敵意對行爲ヲ爲ササルコト
(二)中央軍ニ於テ福州ヲ距ル十哩ノ地點ニテ進軍ヲ止ムル

福州 1月15日前着

本省 1月15日前着

第二五號

往電第一九號ニ關シ

三、前掲(一)付海軍側ニテ異議無シ(二)付中央ヨリ未夕意思表示無シ
以上ニ拘ラス帝國軍艦乗組員ノ上陸ハ必要ト認メ手配セリ
必要ノ向ヘ轉電アリ度シ

コト

福州 1月14日 在福州守屋總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

陸戰隊上陸は居留民保護以外他意なき旨を申

國紙に告示について

福州 1月14日後発
本省 1月14日後着

第三八號
往電第三二號ニ關シ

一、市内比較的平穩ナルヲ以テ軍艦乗組員ノ上陸ハ有ルモ居留民ヲ小學校ニ集合スルノ必要ヲ認メス各自宅ニ起臥セシメツツアリ但シ慎重行動方特ニ夜間外出ヲ避クヘキ事ヲ嚴重居留民一般ニ通達セル外謠言ヲ恐レ大日本帝國陸戰隊ノ名ヲ以テ十四日ノ聞報ニ陸戰隊ハ居留民ノ生命財產ノ危険ニ備フル以外他意無キ旨ノ告示ヲ掲出セリ尤モ外國人支那人トモ帝國陸戰隊ノ上陸ハ當地治安維持ニ貢獻スル處大ナリトシテ歡迎シ居ル實情ナリ
二、米國軍艦ヨリ陸戰隊員及水兵併セテ二十五名餘リ十三日午後非武裝ノ儘上陸即日歸艦セリ

支ヨリ上海へ漢口ヨリ九江へ轉報アリ度シ
例ノ通轉電セリ
支ヨリ上海へ漢口ヨリ九江へ轉報アリ度シ

六 雜 件

英國巡洋艦「ベルツク」ハ十四日佛國砲艦一隻ハ十五日
中ニ到着スヘシトノ事ナリ

支ヨリ上海ヘ漢口ヨリ九江ヘ轉電セリ

千六百元有リタル趣ナリ
冒頭貴電ノ通轉電セリ

支ヨリ上海ヘ廣東ヨリ香港ヘ轉報有リ度シ

678 昭和9年1月15日 在福州守屋總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

福建新政府による不当課税阻止は時局急転に

より実効を挙げ得なかつた旨報告について

福州 1月15日後発
本省 1月15日後着

第三九號

貴電第五號ニ關シ

不當課税阻止方ニ付テハ實效ヲ擧ケ得サリシニ付報告セサ
リシモ有ラユル方法ヲ以テ革命政府ニ談判セル處ナリ(當
地陸軍武官ヨリ直接政府首腦者ニ對シ輸出入貿易ニ惡影響
有ル愚策ナル事ヲ告ケ徵收停止ヲ勸告セリ)政府ハ我方申
入ヲ受諾シタルヤニ見エタリシカ時局急轉ト共ニ有耶無耶
トナリ十三日稅關長ノ内話ニ依レハ前記附加稅收入高ハ一

679 昭和9年1月17日 在福州守屋總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

福州の事態安靜に歸し陸戰隊帰艦について

福州 1月17日後発
本省 1月17日後着

第四八號

往電第四三號ニ關シ

一、事態漸ク安靜ニ歸シタルニ依リ一時避難中ノ臺灣籍民モ
十七日ヨリ隨時各自宅ニ歸ラシムルコトトセリ從テ軍艦
上陸員モ十七日、十八日ノ兩日中ニ歸艦スルニ至ルヘキ
見込

二、米國陸戰隊ハ十六日朝六十名歸艦他ハ同日夕刻歸艦セリ
英國陸戰隊ハ十六日歸艦ノ模様

冒頭往電ノ通り轉電セリ

支ヨリ上海ヘ、漢口ヨリ九江ヘ轉報アリ度シ

680 昭和9年2月5日 在福州守屋總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

国民政府による改組後の福建省政府首腦に対
し日中親善の必要を説示し懸案事項につき注
意喚起について

福州 2月5日後発
本省 2月5日後着

第八三號

ハ大ニ異ルモノアラント述へ居タリ

一、本官ハ新政府ノ態度上述ノ如クナリトスルモ之ヲ成行ノ
ミニ放置スル譯ニ行カス又新政府成立ノ初二我方ノ關心
ヲ深ク政府委員ノ腦裡ニ刻ミ置クコト肝要ト思惟シ新政
府首腦者ト會談ノ機會ニ於テ累次ノ御訓電及帝國政府ノ
聲明ヲ体シ大局ヨリ日支親善ノ必要ヲ説示スルト共ニ當
地ニ於ケル日支懸案事項例へハ林熊祥借款ノ問題)ノ主
要ナルモノニ付テモ一應ノ説明ヲ與ヘ注意ヲ喚起シ置ケリ
三、尙排日傳單ハ一、二八紀念日ニ新タニ貼附セラレタルモ
ノアリシモ右ハ公安局巡警ノ指圖ニテ公然剝取ラレツツ
アリ(季ハ本件取締方直接蔣介石ニ電報セリト言ヘリ)不
穩ナル新聞記事モ漸次減少ス又從前ハ十九路軍ヲ恐レ本
官及居留民トノ接觸ヲ回避シ居タル民間有力中國人モ最
近ニ至リ進ンテ我方ト接觸スル傾向トナリタリ但シ打續
ク内亂ニ依リ當地經濟市場極度ニ疲弊セル結果日支間貿
易ノ恢復ハ急激ナルヲ得サル實情ニアリ

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、廈門ヘ轉電セリ

シ蔣介石及汪精衛トモ親シクスノ如キ意嚮ヲ表明シタリ
ト言ヒ新政府ノ對日關係ハ必スヤ穩健妥當ナルヘク革命
政府成立前十九路軍ノ抗日態度ヲ反映セル蔣光鼐政府ト